

めざめ

カウンセリング Q&A

「そうなんだ」「どう思う」と、子どもに伴走く

栃木県連合教育会教育相談担当常務理事

Q 中二の一人息子のことで相談があります。小さい頃から言うことをよく聞く子で、ママっ子だったのに最近は言うことを聞きません。先日は、「うるさい。僕のことには口出すな!」「何でもかんでもママが勝手に決めるな!」と大声で怒鳴って。もうびっくりするやら情けないやら…。ダンスを習いたいと言うから、そんな余裕があるならもっと勉強に身を入れなさいと言っただけなのです。塾もさぼりがちになっていましたので。

家族は夫と3人暮らしで、直ぐ近くに夫の両親が住んでいます。私は他県の出身で、夫とは職場結婚。妊娠を機に仕事を辞めました。

先々のために、何でもできる子にしてあげたかったのですが、小さい頃からいろいろ習い事もさせました。息子は喜んで楽しそうに通っていました。結構どれも上達が早くて。それに、頑張り屋で、特にピアノは、私も教えられるので、厳しくしましたが、よく練習する子でした。発表会では難しい曲を弾いて、先生や祖父母にとっても感心されて、私も嬉しかったです。しかし、結局何も続かず、受験があるので学習塾だけは行かせています。小学校の頃は、いろいろな活躍して、先生方にほめられていましたが、中学校の担任からは、「力はあるのに、やろうとする気持ちが悪くて、もったいない」と言われています。私もその通りだと思います。

ダンスは、体育の授業がきっかけでやり始め、ユーチューブを見て、遅くまで真似していました。発表前は、塾をサボって友達と練習したことがあり、叱ったんです。もう授業は終わっているのに、なぜ、ダンスなのかわかりません。「口出すな」と言いますが、将来を考えると今は勉強が最優先のはずです。そっちをやる気にさせないと。言うことを聞けばいいのに。私が間違っているのでしょうか。

A お母さんは、息子さんが小さいときから、将来のために考えて、様々な経験を積みさせてこられた。

それを息子さんも喜んでやって上達もして、活躍につながっていたのに、息子さんに「口出すな」「決めるな」と言われては、息子さんを思う気持ちを拒否されたような、壁をつくられたようなお気持ちになられたのではないのでしょうか。

それでも、やっぱり、失敗はさせたくないし、放ってはおけない。どこまで関与した方がよいのか、とても迷われていらっしゃるのではないかと思います。

担任の先生にやる気の乏しさを指摘され、お母さんも同感のことでした。その点から言えば、ダンスへ意欲を持ったことは息子さんの大きな変化ではないでしょうか。息子さんが意欲的になることは、お母さんも望んでいたことだと思えます。対象がダンスで、お母さんが望む勉強ではないからと言って否定しては、それこそもったいないと思います。

人が行動する際の動機は大きく、外発的動機づけと内発的動機づけに分けられます。小さい時、

息子さんはお母さんにほめられた
い、喜ばせたいとの動機で様々な
習い事や勉強を頑張ってきた。上
手にできて、ほめられて活躍もし
たけれど、それらをやること自体
が楽しいという動機にはならなか
ったのかもしれない。先の動機
が外発的で、後の動機が内発的で
す。そして、お母さんや周りが言
ったわけではないけれど、よい結
果を出さなければいけない、失敗
したくないと強く思うようになって、
やらない（失敗を恐れてやり
たくない）選択をするようになって
いったのかもしれない。

ダンスは、息子さんが、授業が
終わった後もやりたいと思う興味
関心の高い、内発的動機によるも
のです。どのようなところが魅力
なのでしょう。息子さんのダン
スへの思いを、まず聞いてみるこ
とをお勧めします。友達と一緒に
踊る一体感、夢中になれる喜び、
新しい動きをつくる楽しさ…、ど
んな思いが語られるのか、是非、
聞いてみてください。

聞くときのコツは、お母さんの
思いや考えは今は出さずに、「うん、
うん。そうなんだ」と頷きながら
聞くことです。早々たやすく話し
てくれないことは多いものです。
ですから、一回で聞こうとせず、
「よく観ているユーチューバーの
人何という人なの？ その人すご
いの？」などと、話しやすいところ
から機会を重ねて、話を広げて
いくとよいと思います。

子どものやりたいことは何で
もやらせればよいというものでは
ありませんが、やりたい思いはわ
かってあげた上で、お母さんの思
いや考えを伝え、折り合いを付け
る話し合いを、こちらも重ねたいで
す。

お母さんの思いや考えを出す
時のコツは、「私は、くだからくだ
と思う」と主語を「私」にして伝
えることと、「あなたは、どう思う
の？」と、息子さんの意見も求め
ながら、上から目線にならないよ
う注意しつつ話し合うことです。
中学生の子どもたちは、まだま

だ視野の狭さや現実吟味の不十分
さが多々ありますが、大人も完璧
ではありません。話し合いを通し「毎
日2時間勉強するので、週一回ダ
ンス教室に行かせてほしい」「教室
は諦めるけれど、家でやるのは認
めて欲しい」などと、折り合いの
つく提案も可能になるでしょう。

それを実行する中で、教室に行
かなくなるとか、家庭学習が疎か
になるとか新たな問題が生じるの
も常です。「教室は期待と違って
たの？」「勉強に集中できない別の
理由があるのかな？」と、その時
も、「そうなんだ」と思いに沿い、
「どう思う」と聞きながら、一緒
に考えていくことを繰り返します。
「こうしなさい」「ああしなさい」
と導くより、この伴走が子どもの
自律を支えると考えます。

お母さんの息子さんへの深い
愛情は、これまでも今もこの先も
変わらない無二のものです。そ
の示し方は子どもの発達とともに
変える技があるのでないでしょ
うか。例えば、手を引いて歩く、

伴走する、一歩下がって追走する、
離れて見守るというように。

こちらの家庭教育通信を
お読みいただいたご感想を
お聞かせください!

真岡市では家庭教育について情報を
発信しています!
ご覧いただき、ぜひご活用ください。

感想フォームは
ログイン不要で
送信できます!

まってる
びょん♪